

今一番さびしいのは長泥の家が解体されたこと。除染と合わせて解体が進んだ訳だけれど、この実感をどう表現していいかわからない。これから避難指示解除を迎えても、そこがようやくスタート地点で、そこからが大事だ。夢のある復興を願っている。帰還困難区域としてだけでなく、中山間地域のモデルになれるような。それには道しるべとなる全体的なアイデアがほしい。先進的なハ

ウス農業でも、工業でもいい。しっかりデータを取った上で、市場に認めてもらえるのか、そこまでをやつてもらいたいと思う。環境再生事業も同様だ。基盤整備をして平らになったから何かやつてくれと言われても、この11年、年齢を重ねた我々には難しい。震災当時は行政区長。皆を信頼し、自分と違う意見を大事に考えた。皆答えが違ふし思いも違ふけれど、それぞれが正しいのだから。角

度を少し変えて「こういう考えもある」と飲み込む雰囲気が大変だ。反発が逆に勇氣や力をくれたとも思う。落ち込んだり泣いたりもしたが諦めたくはなかった。この11年、すごく長かった。今はあまり先のことは考えられない。今日一日を悔いなく生きたいと思つている。元に戻すことはできないのだから、皆が変わる覚悟を持たないといけない。これまでとは違ふ色合いの幸福が感じられる故郷になってほしい。年に4回、皆で草刈りをして、それぞれ自宅周りもやってきたから、「帰還困難区域であるなにきれいな所はない」と言われてきた。都市部の人もリモートで仕事ができる時代。全国から、あるいは世界から、長泥の復興に関わつてみたい人が、数人からでもいい、来てくれたらと思う。自分自身ができなくなつても、長泥を何とか残したい。そう願っています。



はなれていても

嶋原良友さん（長泥 福島県福島市在住）

色鮮やかに長泥の花を加工



現在は村長室で大切に飾られています

長泥地区で環境省が村民と共に試験栽培している花を使ったドライフラワーを、3月2日より役場庁舎内に展示しています。使われている花は、昨年9月に刈り取りをしたトルコギキョウ、カスミ草、リンドウ。3か月ほどかけて乾燥させ、保存用のガスを注入したガラスドームに密封することで、長期保存可能なドライフラワーに生まれ変わりました。

里山×アートinいいたて



松田さん

3月上旬、改装が進む旧コメリで、国内外の第一線で活躍する彫刻家・松田重仁さんの木彫制作が公開されました。材料は村内で伐採されたケヤキ。チェーンソーを使った粗彫りには菅野清さん（佐須）からも協力しました。「ふくしま再生の会」（田尾陽一理事長／佐須）のプロジェクト「里山×アートinいいたて」の一環で、作品の公開は5月の予定。

身近な話題をお寄せください

☎0244-42-1613
村づくり推進課企画係

話題のパレット

小林さんがタラの芽を出荷



2月22日、小林丈二さん・千代子さん（前田・八和木）夫婦が生産する「タラの芽」が、フレスコキクチ鹿島店、ヨークベニマル原町店・原町西店（いずれも南相馬市）の3店舗に出荷されました。店舗によると、地場産品は人気が高く、売り上げも良いとのこと。小林さん夫婦は、思いを込めて丁寧に商品を陳列しました。



折り雛と想いを受け取りました



2月、役場に1通の手紙と折り雛が届きました。送り主は、昨年も手作りの折り雛を送ってくださった横浜市在住の飯尾幸子さん（令和3年4月号掲載）。今年は、それぞれ柄の異なる着物を着たお内裏様とお雛様が3組。すべて手作りで細部まで丁寧に作られています。離れていても、村へ想いを寄せ続けてくれる方がいる証です。

交流センター「ふれ愛館」だより

交流センターが主催する「わくわく農業体験塾」で3月13日、「こんにやくと白菜キムチの手作り教室」が行われました。前田地区の細杉今朝代さん宅で開かれた教室には14人が参加。全員初めてのこんにやく作りでは、講師の齊藤次男さん（深谷）の指導でこんにやくをすりつぶし煮詰めて凝固剤を入れ、2時間半近くをかけ10kgのこんにやくを作り上げました。塾生達は作りたてのこんにやくの澄み切ったおいしさに驚いていました。



できたでふるふる

おすすめ図書を紹介します

芥川賞受賞作「ブラックボックス」（砂川文次）、直木賞受賞作「塞王の橋」（今村翔吾）など話題作がラインアップに加まりました。図書貸し出しをぜひご利用ください。



ブラックボックス
砂川文次 著
発行 講談社
（第166回芥川賞受賞）